



アマチュアオーケストラ

新交響楽団 第257回演奏会

The New Symphony Orchestra – 257th Concert

指揮 飯守泰次郎
IIMORI Taijiro, conductor

ウェーバー 歌劇「魔弾の射手」序曲

Carl Maria von WEBER (1786-1826):

Overture to the Opera "Der Freischütz", Op. 77, 1820

リヒャルト・シュトラウス 交響詩「死と変容」

Richard STRAUSS (1864-1949):

Symphonic Poem "Tod und Verklärung (Death and Transfiguration)", Op. 24, 1889

ブラームス 交響曲第4番 ホ短調

Johannes BRAHMS (1833-1897): Symphony No. 4 in E minor, Op. 98, 1885

Design: IMAO Keisuke

池袋駅西口 Ikebukuro Station, West Exit

13:00 開場

2022年4月29日(金・祝) 東京芸術劇場コンサートホール 14:00 開演

Friday, April 29, 2022, 2:00pm (doors open at 1:00pm) at Tokyo Metropolitan Theatre, Concert Hall

入場料 S席: ¥3,000 A席: ¥2,000 (全席指定)

チケットのお申し込み: 新交響楽団ホームページ <http://www.shinkyo.com/>

チケットのお申し込み・お問い合わせ: コンサートイメージ 03(3235)3777 *10:00 ~ 18:00 (日曜・祝日を除く)

・客席内でのソーシャル・ディスタンス確保のため、ご購入できるお座席を一部制限しております。

・感染予防及び公演当日の混雑緩和のため、チケットの事前予約・引き取り・購入をおすすめいたします。

*点字プログラムを若干部用意しております。入口でお渡しいたしますのでお申し付けください。

*おそれいりますが未就学児のご入場はお断りさせていただきます。託児サービスをご利用ください(予約制・詳細は裏面)。

新交響楽団のホームページ <http://www.shinkyo.com/> 演奏会案内や曲目の解説、これまでの活動記録などがご覧いただけます。

今回のコンサートでは、指揮に飯守泰次郎氏を迎えドイツ・ロマン派の作品を演奏します。バイロイト音楽祭の助手を務めるなど長年ドイツを中心に欧州で活動しドイツ文化に造詣が深い飯守氏のタクトで、その魅力をお楽しみください。

ブラームス最後のシンフォニー

ブラームス (1833-1897) は、バッハ、ベートーヴェンと並びドイツ作曲家三大Bに数えられています。4つの交響曲のそれぞれに個性があります。第1番はベートーヴェンを意識し約20年かけ完成された荘厳で堂々としたもの。第2番はドイツの田園風景を思わせ明るく開放的。第3番は恋する気持ちが表れ甘美で哀愁的。そして最後に書かれた第4番は、それらすべての要素を併せ持つ最もブラームスらしい交響曲かもしれません。ブラームス自身も「自作で一番好きな曲」としていました。

1885年にブラームス自身の指揮でマイニンゲン宮廷管弦楽団で初演されましたが、同団の補助指揮者をしていた若き日のリヒャルト・シュトラウスがトライアングルを担当しました。**リヒャルト・シュトラウス=ドイツ・ロマン派最後の巨匠**

R.シュトラウス (1864-1949) は、25歳からの10年間で「交響詩」と呼ばれる標題のついた作品を集中して作曲しました。『死と変容』もその一つです。若い頃は病弱でたびたび死の危機に直面することがあり、その時の心境を音にしたものです。

変容 Verklärung は、キリストが光り輝く姿になった時にも使われる言葉で、日本では成仏の方がピンとくるかもしれません。作曲から60年後、シュトラウスが死の間際に昏睡状態から目覚めて「死と変容と同じだった」と言ったということです。

ドイツ国民オペラの始まり=「魔弾の射手」

ウェーバー (1786-1826) が歌劇「魔弾の射手」を作曲したのは1821年、19世紀初頭のドイツではイタリアオペラが主流でした。モーツァルト「魔笛」やベートーヴェン「フィデリオ」といったドイツ語のオペラはありましたが、外国の話が題材で、ドイツ民話に基づいたこのオペラは大成功を収めました。

物語はボヘミアの森。結婚がかかった射撃大会で悪魔に魂を売って入手した魔弾を使うことに。7発中6発は必ず命中するが1発は悪魔の望む場所に当たるといふ魔弾。悪魔は最後の1発を婚約者に当たるようささやくが結果はいかにか！

どうぞお楽しみに！ (H.O.)

ご来場いただくお客様へ (新型コロナウイルス感染症対策)

当日は37.5℃以上の発熱、咳・のどの痛み・倦怠感等の体調不良がある方はご来場をお控えください。

会場入り口でご来場の皆様の体温を測定いたします。会場内ではマスク着用し、咳エチケットやこまめな手洗い、手指消毒をお願いします。ほかの人との距離できるだけ空け、大きな声での会話はお控えください。クロークサービスは必要最小限(大型荷物のみ)です。出演者への贈り物はお控えください。

体調不良等が認められる場合は、ご入場をお断りする場合があります。なお、体調に不安がありご来場をお控えいただく場合や、当日の検温の結果入場いただけない場合は、チケット代を払い戻します。

詳しくはホームページにて注意事項や公演の最新情報をご確認ください。これらのお願い事項につきましては、状況により変更になる場合がありますので、ご了承ください。

今後の演奏会予定

<第258回演奏会>

2022年7月18日(月祝)14時 東京芸術劇場

指揮 坂入 健司郎

曲目 バーバー/管弦楽のためのエッセイ第2番、ガーシュウィン/パリのアメリカ人、ドヴォルザーク/交響曲第9番「新世界より」

<第259回演奏会>

2022年10月23日(日)14時 東京芸術劇場

指揮 寺岡 清高

新交響楽団のプロフィール

新交響楽団は1956年に創立されたアマチュアオーケストラです。音楽監督・芥川也寸志(1925-89)の指導のもとに旧ソ連演奏旅行、ストラヴィンスキー・バレエ三部作一挙上演、10年におよぶ日本の交響作品展(1976年にサントリー音楽賞を受賞)、ショスタコーヴィチ交響曲第4番日本初演など意欲的な活動を行ってきました。

またマーラーの交響曲全曲シリーズ(山田一雄指揮、1979-90)、ベルリン芸術週間への招聘・邦人作品演奏(石井眞木指揮、1993)、伊福部昭米寿記念演奏会(2002)、石井眞木遺作「幻影と死」完全版初演(高関健指揮、2004)、ワーグナー「トリスタンとイゾルデ」演奏会形式公演(飯守泰次郎指揮、2006)など、幅広い活動を積極的に展開しています。

維持会のご案内 ~良いお席を安く~

新交響楽団維持会は、新響の演奏活動にご賛同いただき支援して下さる方々の組織です。集まった会費は、楽器購入や演奏企画に活用しています。会費は一口10,000円で、2年間有効の5枚綴りの回数券(どの演奏会でも一度に何枚でも使用可能)を差し上げます。良いS席を優先的に確保いたしますので当日その中からお選びいただけます。お申込みは郵便振替にて直接会費をお振込みください。郵便振替口座:00130-0-28074「新交響楽団維持会」

団員を募集しています

音楽監督の故芥川也寸志が長年にわたって主張し続けてきた「音楽はみんなのもの」を実践し、常に新しい視点を持って活動していくために、新しい力が必要です。何はともあれ、ぜひ一度練習をご覧ください。見学・オーディション等のお問い合わせはE-mail:shinkyomusic.nifty.jp

練習は毎週土曜日午後6時~9時、東京芸術劇場(池袋)、クラシック・スペース☆100(大久保)他にて。

演奏会当日の託児サービスのご案内

東京芸術劇場でのご鑑賞の際には、施設内の託児室をご利用いただけます。土日祝日を除く公演日一週間前までにご予約ください。対象年齢:生後3ヵ月から小学校入学前、1公演あたり2,200円(税込)お問合せ:株式会社ミラクス ミラクスシッター、電話0120-415-306(平日9:00~17:00、土日祝日休み)